

第2回 関上地区津波避難計画・避難誘導サイン計画作成ワークショップ

2017年10月19日(木) 19:00~20:00

名取市法務局会議室

検討概要

1. グループワーク(避難時における問題・課題について)

◎発災時における問題・課題

<避難の意識>

- ・一年前の津波警報時に津波が来なかった為、今回も来ないものと思っていた。
- ・避難しなければいけない。という意識が希薄であった
- ・貞山運河の水が引いたら津波が来る。という家庭内教育が避難の役に立った。

<情報の入手>

- ・ラジオなど情報を入手しようとする人が少なかった。
- ・パニックにより、情報入手手段を考えられなかった。
- ・早めに避難しておけば助かっている人も多い。

<事前情報・教育の重要性>

- ・石碑など津波被災を伝えるものの存在を知らなかった。
- ・防災教育の重要性を痛感した。
- ・昭和3年に3mの津波が来たという、石碑を見ていた。
- ・日和山に津波への警告(石碑)があったのに、津波に対する意識が無かった。

◎発災から避難における問題・課題

<家族との連絡手段>

- ・海側から学校に通っている子どもが多くいた。
- ・家族の安否・確認方法が無かった。
- ・逃げる人もいれば、戻ってくる人もいて異様な感じだった。
- ・子どものいるところに大人も行くので子どもが助ければ親も助かる。

◎避難時における問題・課題

<自動車の渋滞>

- ・関上築港線(幅の広い道路)に避難する車が集中し、渋滞していた。
- ・関上増田線は液状化しており、建物も建て詰まっていたので避難道路には使われなかった。

- ・逆走する車などもいて混乱していた。
- ・小塚原線は円滑に流れており、イオンモールまで避難できた。
- ・地理を十分に理解しており、渋滞しない道を事前に把握していた。

◎避難場所における問題・課題

<避難場所の準備>

- ・食料が無かった。
- ・避難所開設のマニュアルが無かった。

◎今後の問題・課題

<イベント時の対応>

- ・シラス祭りのときもイベントが重なり大渋滞となっていた。
- ・イベント時の来訪者への案内。

2. 検討状況

